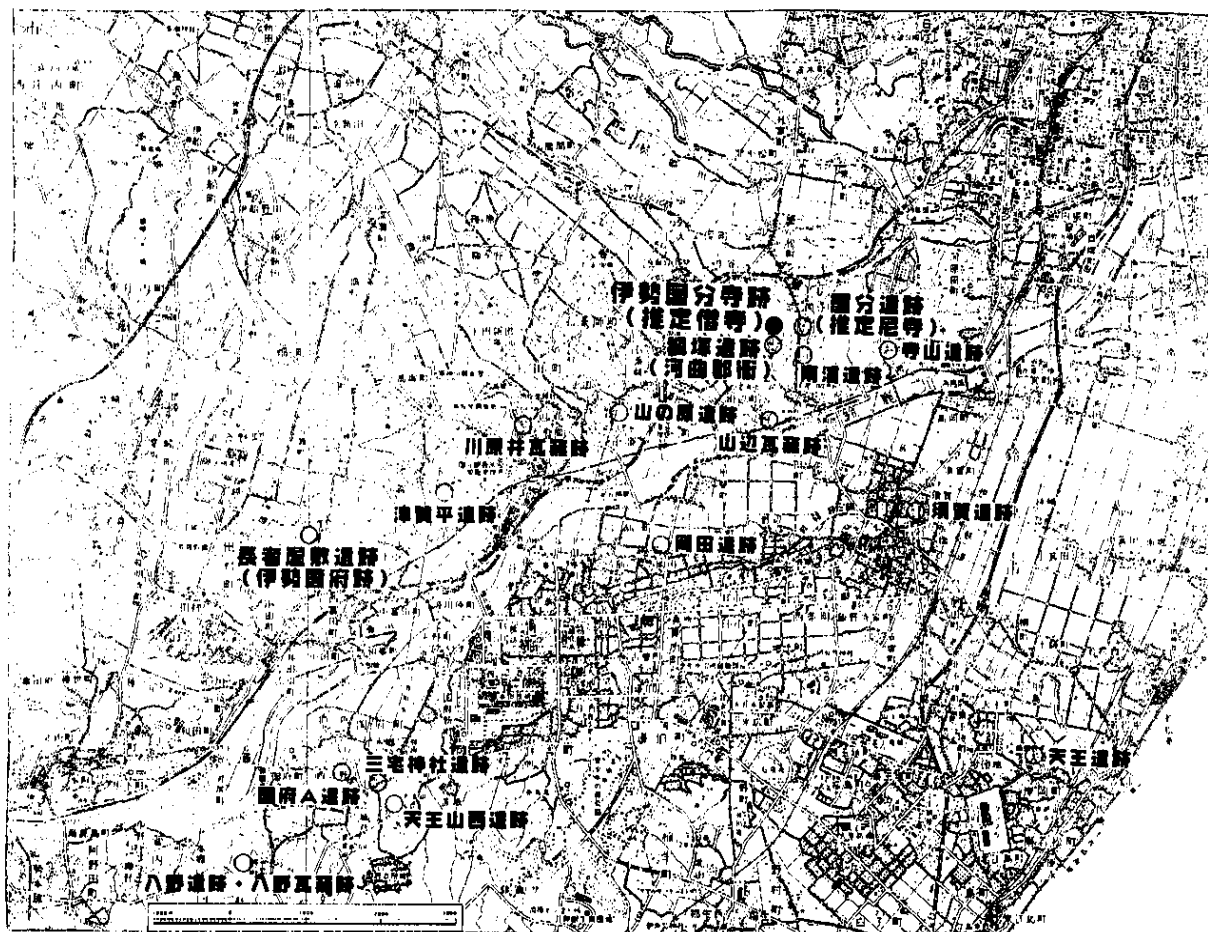


2000. 8. 26

伊勢國分寺跡

第24次発掘調査現地説明会資料



周辺の遺跡

1. これまでの調査

鈴鹿市国分町に所在する伊勢国分寺跡は、大正11年に約4万㎡が国の史跡に指定されました。国分寺には僧寺と尼寺があり、この史跡指定地は僧寺とされています。尼寺は、史跡の約400m東、現在の国分町において宅地が密集しているあたりと考えられています。

昭和63～平成2年の調査では、築地塀に囲まれた寺の範囲が約180m四方であることがわかり、この範囲が国分寺の中心となる伽藍地と推定されました。

史跡整備のための学術調査として開始した平成11年度の調査では、初めて史跡内部に調査区を設けました。伊勢国分寺では最も残りが良い講堂（こうどう）推定地を調査し、基壇の東西規模が約33mであることがわかりました。

2. 今年度の調査

昨年度見つけた講堂とその南に想定される金堂（こんどう）の推定地を調査しました。

講堂では、南西・北西部を中心に調査し、基壇の南北が約21mであることがわかりました。この基壇の形から7間×4間の柱間を持つ建物が想定されます。北西部においては塼（せん）からなる基壇の基底が良好に残存していました。さらにこれらの塼の近くからは軒瓦が軒から落下したままの状態ですべて出土し、当時の屋根景観を知る上で貴重な成果が得られました。

金堂推定地からは金堂基壇の基礎地形（きそじぎょう）だけが見つかり、基壇そのものを示す遺構は残っていませんでした。この基礎地形が基壇の範囲に一致するとすれば、南北は約23m、東西は約28mとなります。このように正方形に近い平面形態をとる金堂は、国分寺よりも古い寺院に一般的で、5間×4間の柱間が想定できます。

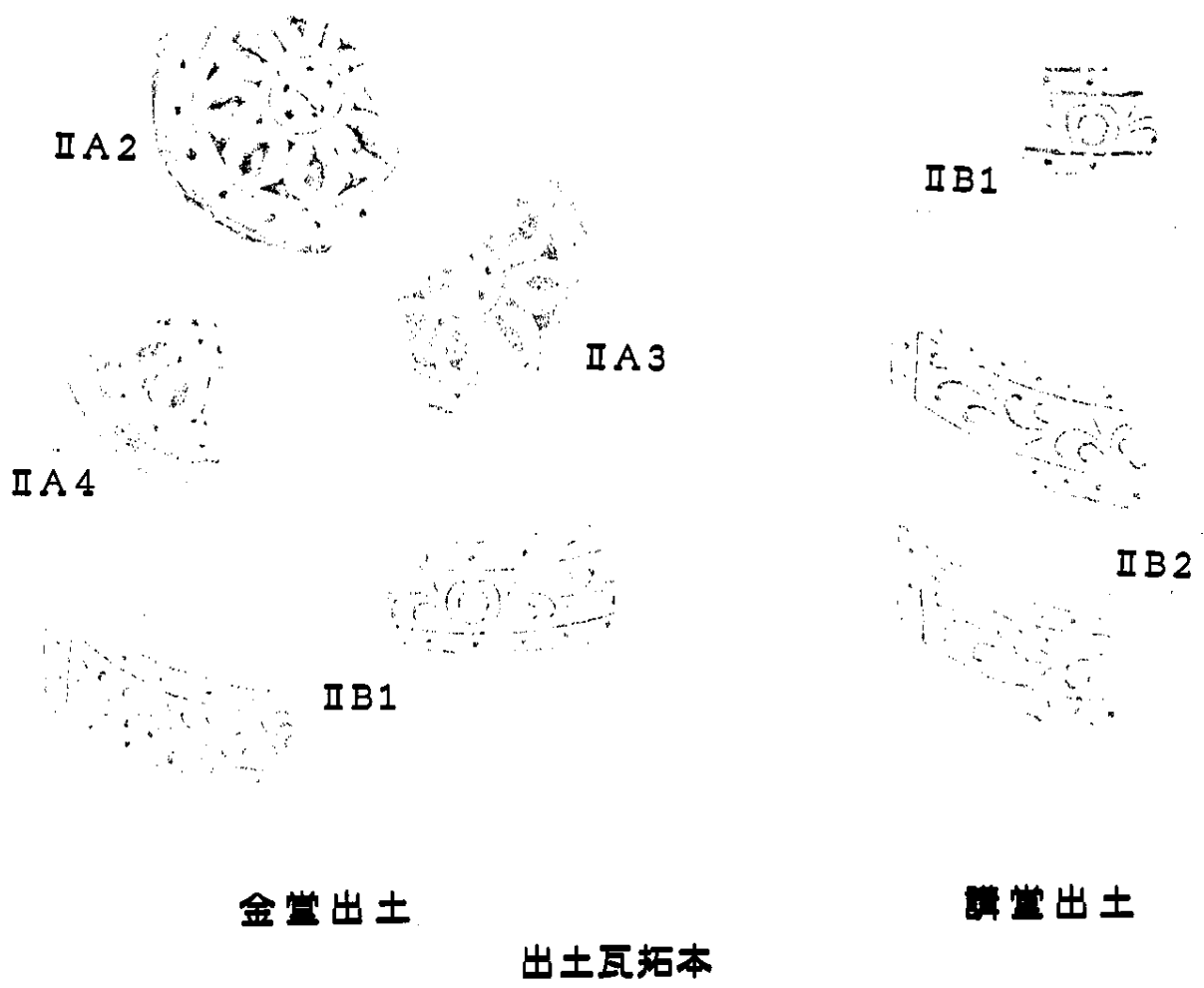
今回見つけた金堂の基礎地形は創建当初のものと見られるのに対し、その上部や一部を壊すようにして見つけた整地層は国分寺の改築に伴うものである可能性もあります。金堂の南面に想定される階段の痕跡についても精査しましたが、明らかにすることはできませんでした。

講堂や金堂付近からは、建物に使われていた瓦・塼・釘などのほ

か土師器・須恵器・灰釉陶器などの土器類も少量出土しました。屋根の軒先を飾る軒瓦は、蓮華文軒丸瓦が3種類、唐草文軒平瓦が2種類出土しています。講堂では軒丸瓦ⅡA2・軒平瓦ⅡB2が、金堂では軒丸瓦ⅡA3・ⅡA4・軒平瓦ⅡB1が多く出土しています。埴には断面が台形のもの、直方体のもので、板状のものがあります。

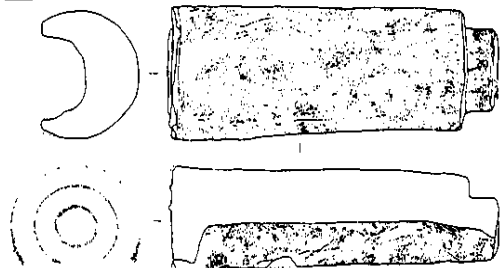
3. まとめ

今回の調査で講堂の南に金堂があることがわかりました。さらに南には過去の調査から中門・南門も想定されます。講堂・金堂・中門・南門を南北に貫く中軸線は、これまで明らかになった国分寺の範囲内において西に大きく片寄り、東に広い空地が生じます。未発見の塔の所在を求めるとすれば、この東半部分が有力であるといえるでしょう。また南門は伽藍地南辺の中央にあるのが一般的なので、南門及び伽藍地を画する築地塀の詳細な調査が求められます。

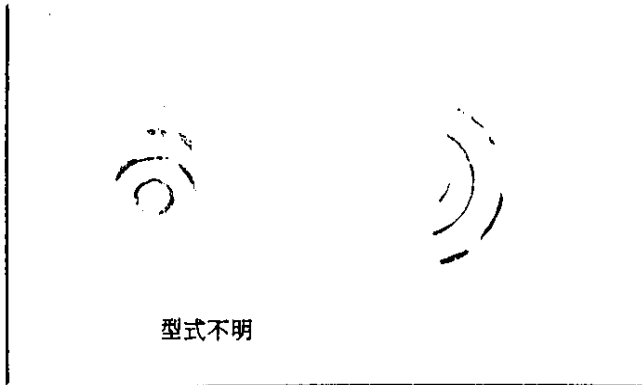


軒丸瓦の分類

重图文

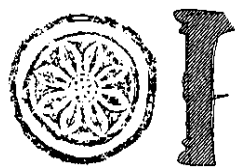


I A 2



型式不明

単弁八葉蓮華文



II A 1



II A 2



II A 3



II A 4

単弁十葉蓮華文



II A 5



II A 6



II A 7

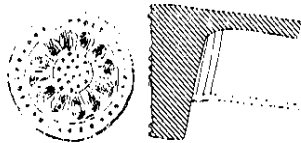


II A 8



II B 1

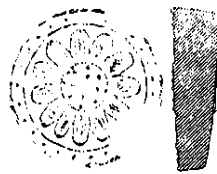
単弁十二葉蓮華文



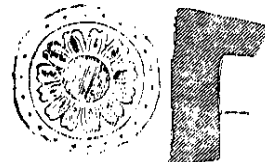
II C 1



II C 2

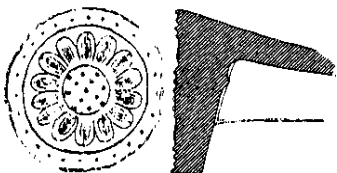


II C 3



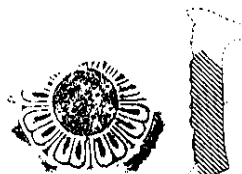
II C 4

単弁十四葉蓮華文

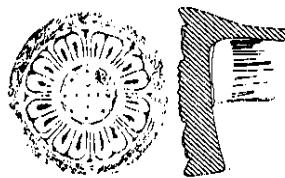


II D 1

複弁八葉蓮華文



II E 1



II E 2

複弁十二葉蓮華文



II F 1

軒平瓦の分類

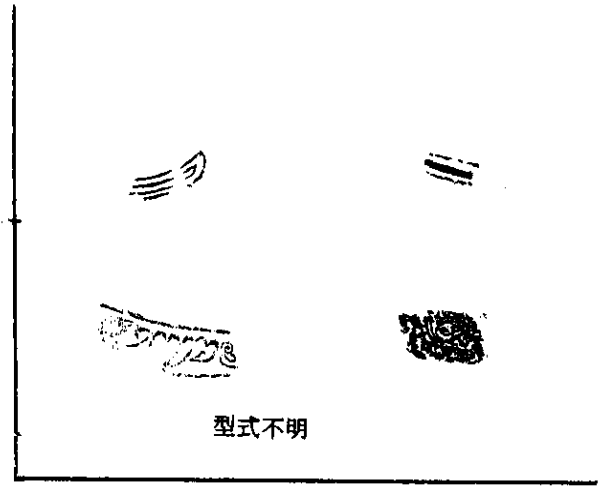
重廓文



I A 2



I A 6

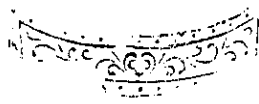


型式不明

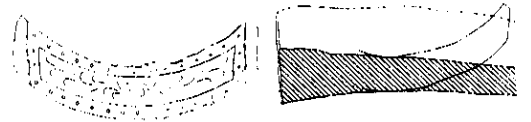
均整唐草文



II B 1



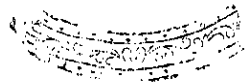
II B 2



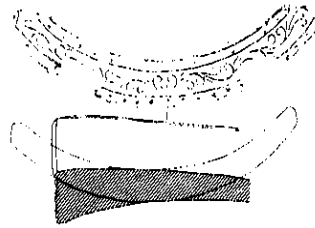
II B 3



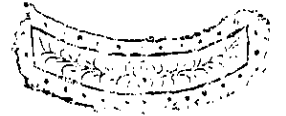
II B 4



II B 5



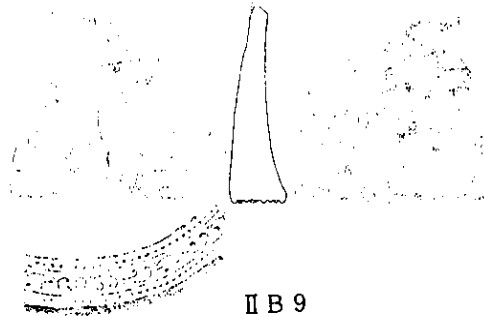
II B 6



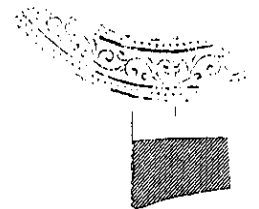
II B 7



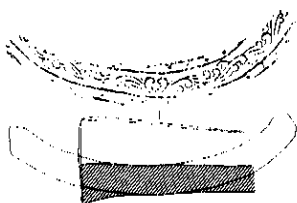
II B 8



II B 9

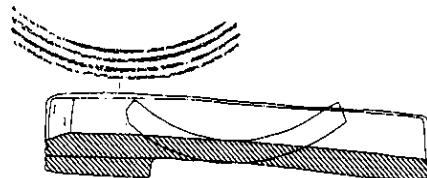


II B 10

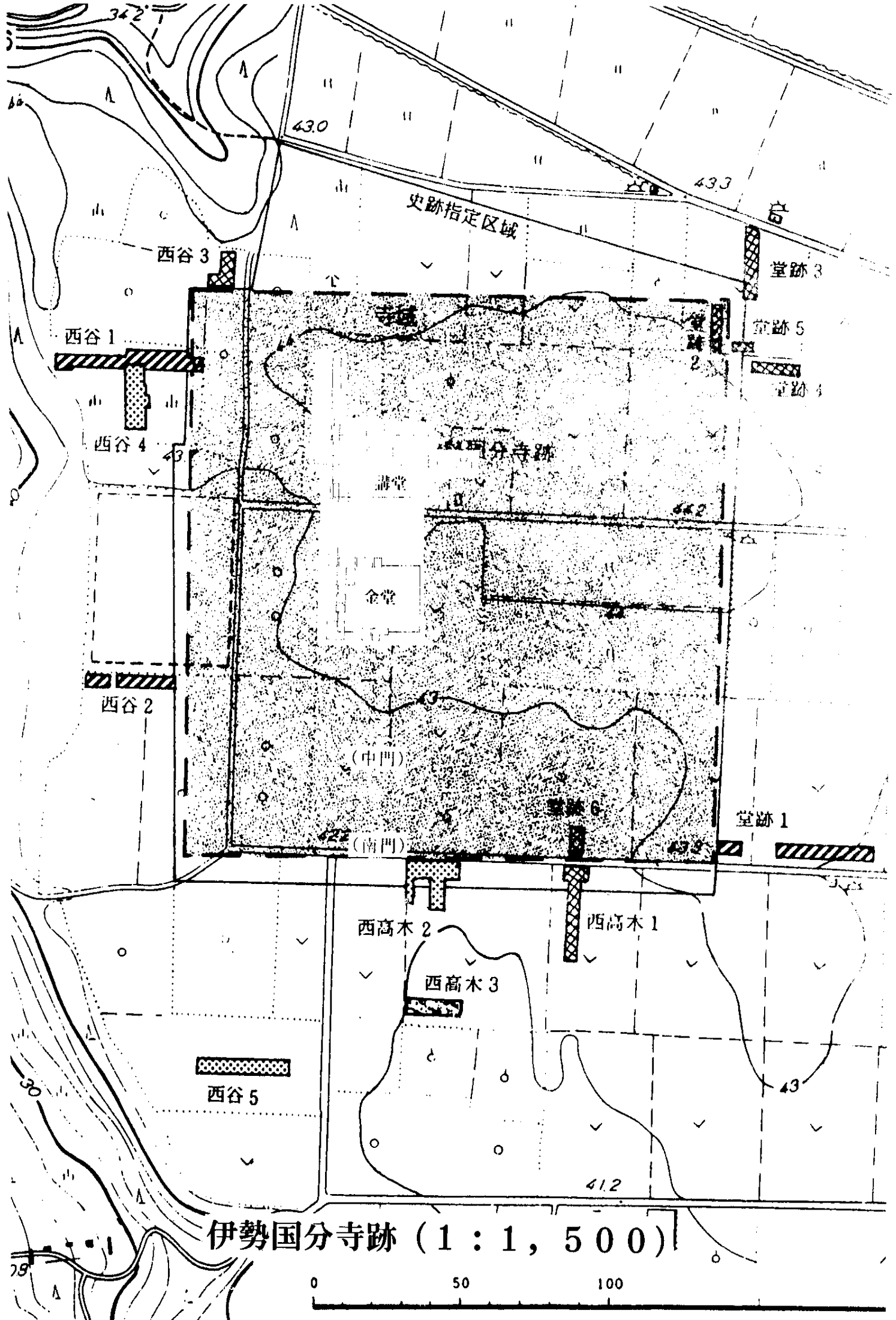


II B 11

重弧文



III A 1



伊勢国分寺跡 (1 : 1, 500)

0 50 100

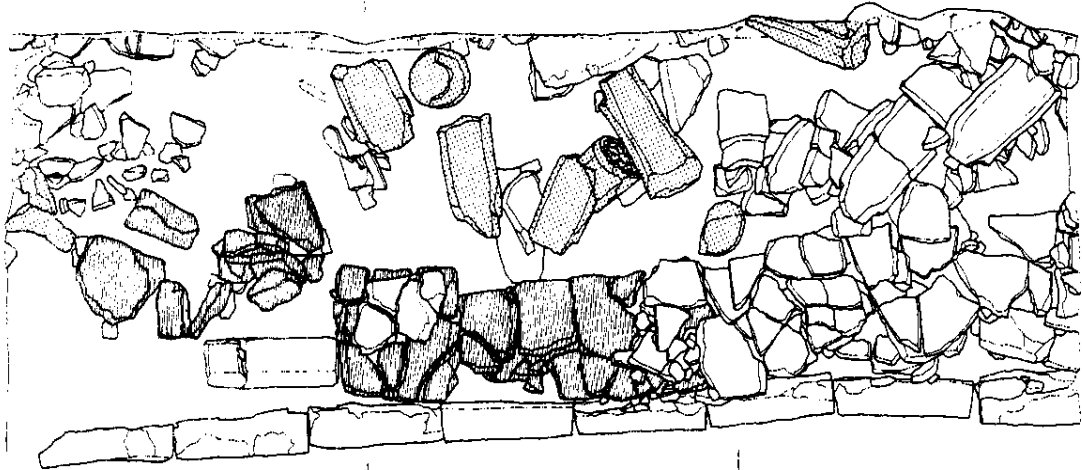
キーワード

伽藍地(がらんち)・・・寺院のなかでいわゆる七堂伽藍(講堂・金堂・塔・食堂・僧坊・経蔵・鐘楼)からなる中心施設。南面の中央には南(大)門が配され、周囲には築地塀などをめぐらした仏教空間。

基礎地形(きそじぎょう)・・・礎石建物の基壇の地盤改良工事。基壇の地下部分を地固めのために掘り下げ、叩き締めながら埋め戻したものの。掘り込み地形。

国分寺(こくぶんじ)・・・天平13(741)年、聖武天皇の詔により国ごとに建てられた寺。僧寺(金光明四天王護国之寺)・尼寺(法華滅罪之寺)の二寺制。僧は20名、尼は10名が置かれた。伊勢国分寺では、大正11年に国指定になった史跡が僧寺、史跡の約400m東が尼寺とされる。

塀(せん)・・・基壇の外装などに用いられた煉瓦あるいはタイル状の土製品。



0 1 m

■・・・軒丸瓦

□・・・軒平瓦

講堂北西 塀・瓦出土状況(1/20)

めも

〒513-0013

鈴鹿市国分町224

鈴鹿市考古博物館

TEL 0593(74)1994

鈴鹿市考古博物館企画展「東海道の国分寺」開催中（8／31まで）